
東方屋敷怪事件

緋羅威

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

東方屋敷怪事件

【Nコード】

N5339M

【作者名】

緋羅威

【あらすじ】

いつも通りチルノ、ルーミア、ミスティア、リグルが遊んでいる所に、一人の人間がやってきた。どうやら、新しい遊び場を提供してくれるようだ。

ブログ すべての始まり（前書き）

東方projectのキャラクターで、クロックタワーをリメイクするなら、という気持ちで書く作品です。

キャラクターの死亡描写があるので注意願います。

プロローグ すべての始まり

「さあ、早くついておいで」

いつも通り、湖畔で遊んでいたリグル達4人のもとに、一人の人間がやってきたのは、レティが居なくなる位の季節のことである。

「ミスティア、はやく！新しい遊び場に着く前に日が暮れちゃう！」
「ねえ、あたい達の新しい遊び場ってどんなところなの？」

「ふふっ、先刻から何回目かしらねえ。大丈夫、とっても楽しいお屋敷よ」

「そーなのかー！楽しみ〜！」

「そろそろ見えると思うわ。ほら・・・」

「わあ、すごい！真っ赤なお屋敷！」

~~~~~

「おつきなお屋敷ねえ〜」

と、水色の髪をした妖精、チルノが言うと、

「そうだねえ〜」

と、金髪の赤いリボンをつけた少女、ルーミアが言う。

「大広間だけでこんなに大きいなんて・・・」

と大きな羽を持つ少女、ミスティアが驚く。

「私はこのお屋敷の一番偉い人に報告をしてくるから、しばらくここで待っててね」

と白髪のメイド、咲夜が部屋から出て行く。

「~~~~はい~~~~」

と、4人の声が揃う。

## ブログ すべての始まり（後書き）

初投稿です。短いすね。

時間は掛かると思いますが、確実に更新していきたいです。

## 第一話（前書き）

因みに主人公は一応リグルです。  
それと、皆能力使えません。



物が沢山積みさっている部屋に来た。

（何か便利そうな物はないのかな）

と探索を始めた。

色々使えそうなものを並べてみた。

針金、＋ドライバー、護身用ナイフ、鎖。

だいたいこんなものかしら、と一息ついたそのとき、

「ガコン！」

「何の音!？」

音のした方を見ると、前に椅子があつて、開けていなかったクロゼツトがあつた。

「誰か居るの？」

とやや小さめな声で聞いてみた。

「・・・リグル?リグルなの？」

「その声は・・・チルノ?どうしてそんな事しているの?悪戯も程々にしてよ!」

「違つんだつて!待つてて、今出るから」

とチルノは言つて、クロゼツトの後ろから出てきた。

「先刻、リグルが見に行くつていつて広間から出たあと、急に電気が消えて、ドアから大きな槍を持った人がでてきて、殺してやる、とか言いながら追いかけてきたんだよ!!!」

「それは誰なの!?知つてる人？」

「いや、見た事なかった・・・」

「他の2人は!？」

「必死で逃げているうちに、バラバラになつちやつた。ゴメン・・・」

「しょうがないわよ」





## 第一話（後書き）

とりあえずチルノとリゲル合流。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5339m/>

---

東方屋敷怪事件

2010年10月10日03時31分発行